

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 59
2021.3

TOPICS

1

令和2年度岡山大学学位記等授与式を挙



3月25日、令和2年度学位記等授与式を岡山県総合グラウンド体育館で行い、学部生・大学院生ら計3,139人の門出を祝福しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和元年度はやむを得ず式典を中止しました。今年度は何らかの形で式典を挙行できればとの思いのもと、保護者の方や学外者の方の入場をご遠慮いただき、午前・午後の2回に分散して実施し、椅子を1席ずつスペースを空けて配置するなど、入念な感染拡大防止策をとった上で挙行しました。

式では榎野博史学長が、学部・研究科などの総代22人のうち、代表者に学位記・修了証書を授与。学業成績と人物がともに優れた学生に授与する「岡山大学黒正賞」の受賞者17人を表彰し、代表者に賞状を贈りました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10132.html



TOPICS

2

学内のSDGs活動を奨励する 「SDGs推進表彰 (President Award)」表彰式を挙

3月10日、岡山大学SDGs推進表彰の表彰式を創立五十周年記念館で挙行しました。この推進表彰はSDGs推進本部が学内におけるSDGs推進のための取り組みを普及推進するため創設。教育、研究、職場環境改善、学生グループの4分野から取り組みを募集し、25件の申請の中から優秀賞4件、奨励賞12件の計16件の取り組みを表彰しました。

優秀賞には、農学部の「SDGsを指向したグローバルな実践型地域連携教育プログラムの展開」、岡山県クラスター対策班(OCIT)の「新型コロナウイルス感染症の感染防止対策及びクラスター対策」、岡山大学TABLE FOR TWOの「TABLE FOR TWO」、SHARE&CHILL!!の「ベトナム人技能実習生に対する日本語学習・文化交流活動の支援」を選びました。榎野学長は、「受賞した各団体の活動が起爆剤となって、本学のSDGs達成に向けた活動の活性化につながることを期待します」と述べました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10074.html



Pick up!

～コロナがなんじゃ！WIN&WIN学生プロジェクト第3弾～ 「がんばろう！岡大生」をテーマにしたモザイクアートが完成！



新型コロナウイルスの影響を受けた岡大生たちへエールを贈るためのモザイクアート「がんばろう！岡大生」が完成しました。本企画は、宮本泰輔さん(法学部4年)が中心となり企画。「学生たちに笑顔で過ごしてもらいたい」との思いから、学生たちの笑顔写真を募集し、モザイクアート式で表現する企画を考えました。学生だけでなく卒業生や教職員からも笑顔や思い出の写真が集まり、トータル約1万枚の写真でモザイクアートが完成。これらの写真を組み合わせて表現したのは、榎野博史学長が撮影した時計台の写真です。岡山大学出身の著名人の方々からの写真とメッセージも加え、縦90cm×横180cmのアートが完成しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10115.html



TOPICS

3

令和2年度「学生文化奨励賞・学生スポーツ賞」授与式を挙

令和2年度「学生文化奨励賞・学生スポーツ賞」授与式を3月24日、創立五十年記念館で挙

行し、個人の部16人・団体の部1団体を表彰しました。学生文化奨励賞は、正課外文化活動において優秀な成績を収めた、または活動実績が認められた学生を顕彰する制度。学生スポーツ賞は、国際大会や全国大会等の正課外スポーツ活動において活躍し優秀な成績を収めた、または社会貢献活動を継続的に行ったり、校友会活動に貢献した学生を顕彰する制度です。

授与式では佐野寛理事(教学担当)・総括副学長が各賞の代表者に表彰状を授与し、「岡山大学における学生の文化・スポーツ活動が、より一層充実・発展することを期待しています」と励ましの言葉を贈りました。表彰終了後、サプライズで、校友会体育会総務委員長の山口優さんから、3月で退任する佐野理事へ「校友会をはじめとした正課外活動の価値を深く理解してくださり、コロナ禍においても私たちの活動を温かく後押ししてくださいました。よってその功

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10138.html



TOPICS

4

大学のコミュニケーションシンボルをラッピングした
広報車両を新たに導入

本学では、より地域の皆様に親しみを持っていただけるよう、岡山大学のコミュニケーションシンボルをラッピングした広報車両を、国の国立大学イノベーション創出環境強化事業の助成を受け導入いたしました。

デザインには、本学が活動の中心に据えて推進するSDGsのロゴマークをイメージした配色を施し、「岡山大学ー地域ー世界」を表現しています。

3月11日に、那須保友理事(研究担当)・副学長、高橋香代理事(企画・評価・総務担当)、加賀勝副学長らの立ち会いのもと、榎野博史学長が試乗しました。本車両は、岡山大学学都基金の募金活動などに活用していく予定です。

本学では、この新車両により、SDGs推進を核として地域とともに新たなイノベーション創出と社会変革を目指して取り組めるよう、岡山県内をはじめさまざまな地域へ積極的に出かけて参ります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10078.html

PRESS
RELEASE

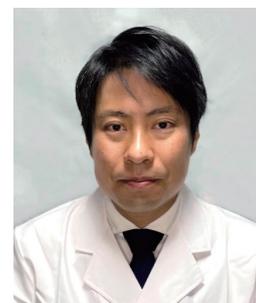
専門医の思考を学習させたAI投薬支援システムを開発

近年、医療におけるAIの活用が進んでいますが、投薬支援での活用はあまり進んでいません。その理由としてわが国ではビッグデータが集めにく、また実臨床データにはノイズが多いため、機械学習が困難であるという問題点がありました。大学院医歯薬学総合研究科(医)の大原利章助教は、東北大学材料科学高等研究所の杉谷宜紀助教、水藤寛教授とともに、臨床データの適切な選択と補完により効率的な学習を可能とし、専門医の思考に基づいた投薬の判断を再現する事が可能になるシステムを開発しました。

このシステムを腎性貧血に対する赤血球造血刺激因子製剤(ESA製剤)と鉄剤投与の問題に応用し、重井医学研究所附属病院(岡山市南区)の池田弘部長(当時)、櫻間教文部長、岡山大学病院血液浄化療法部の木野村賢講師、小林内科(岡山市北区)の原口総一郎院長と共同でAI投薬支援システム(AISACS)を開発しました。ESA製剤、鉄剤共に90%以上の割合で臨床的に正しい投薬判断を出力可能である事を明らかにしました。

本研究成果は2月22日、豪州の医科学誌である「International Journal of Medical Sciences」に掲載されました。今後はAI投薬支援システムの基本技術として、さまざまな投薬に応用される事が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id815.html



大原助教

